

表現する者、
おいでおいで。

台東区 芸術文化 支援制度

総額
240
万円*

※採択企画全件の総額です。

募集期間 令和7年4月14日(月) — 5月8日(木) 必着

文化のまち・台東区にふさわしく、魅力あふれ、斬新な表現の創造や発展につながる、芸術文化にかかわる企画を募集します。

お問合せ 台東区役所 文化産業観光部 文化振興課
Tel. 03 (5246) 1328



台東区芸術文化支援制度

検索



▲台東区 HP

令和7年度『台東区芸術文化支援制度』募集のご案内

申請の際には、「令和7年度台東区芸術文化支援制度募集要領」を必ずご覧ください。

趣旨・目的 台東区芸術文化支援制度は、台東区の新たな文化の魅力の創出を図るため、新たなチャレンジやこれからの飛躍を目指しているアーティスト・プロデューサーたちに、資金や機会の提供などの支援をしようという趣旨で創設されました。文化のまち・台東区にふさわしく、魅力あふれ、斬新な表現の創造や発展につながるような芸術文化に関わる企画を台東区が支援することにより、区の文化振興を図ることを目的とします。

申請書類 令和7年度の募集要領及び申請書等の様式は、台東区公式ホームページよりダウンロードできます。

募集期間 令和7年4月14日(月)～5月8日(木)必着 郵送受付のみ

審査 一次審査(書類審査)、二次審査(一次審査通過者によるプレゼンテーション)を行い、8月上旬頃に支援対象企画を決定します。

支援内容 (1) 経費の助成(助成対象経費から入場料、協賛金などの収入を差し引いた金額の範囲内で、総額240万円を上限に助成)
(2) 台東区及び台東区アートアドバイザーによる助言等のサポート
※助成金総額(240万円)は、採用された全ての企画に対する助成金の総額です。

対象者 積極的に芸術文化活動を行いたいと考えている個人及び団体
※住所地や活動拠点については、問いません。

募集する企画(助成対象) 前述の【趣旨・目的】を踏まえ、以下の条件をすべて満たす芸術文化にかかわる企画であること。
(1) 台東区にふさわしく、台東区が支援する意義がある企画であること
(2) 台東区内で実施される企画であること
(3) 令和7年9月1日から令和8年3月15日までに実施されること
(4) この支援がなければ、企画の実施が困難であること
(5) 原則として、プロのアーティストがかかわる企画であること
(6) 広く区民等に周知され、区民等の鑑賞または参加の機会が提供されること
(7) 募集要領記載の「対象とならない企画」に該当しないこと

台東区アートアドバイザー (五十音順・敬称略)

池田 卓夫 音楽ジャーナリスト
伊藤 あつ子 株式会社 風土文化デザイン 代表取締役社長
観世 葉子 俳優
熊倉 純子 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授
富塚 絵美 アートディレクター
友吉 鶴心 薩摩琵琶奏者
坂 真太郎 能楽師シテ方観世流

令和6年度の支援対象企画(4件、助成金総額240万円)をご紹介します。

これまでの支援対象企画の内容は、台東区公式ホームページでもご覧いただけます。

でんちゅうさんひとめぐり

企画者 萩原昌子(Sasa/Marie)
会場 旧平柳田中邸
日程 令和6年10月5日

平柳田中氏にインスパイアされた詩の空間を、手話・文字・書道などの視覚的言語と、声・ダンス・音楽で表現。連詩型サイレントポエトリ、シャッフル・ポエトリーなど、観客参加型の即興詩も生まれました。2018年からでんちゅうさんシリーズとして展開、本企画で一巡。



三浦環のシューベルト《冬の旅》 一新発見の訳詞と録音に基づく再現演奏・語りでおくる プリマ・ドンナの人生と芸術

企画者 早坂牧子
会場 旧東京音楽学校奏楽堂
日程 令和6年11月29日

オペラ歌手三浦環(1884～1946)生誕140年を記念し、シューベルト《冬の旅》の録音と訳詞をもとに最晩年の演奏を再現。曲間には夫・政太郎の語りを配し、環の人生と芸術を辿る舞台として構成しました。



妖怪図鑑花屋敷徘徊

企画者 山本裕&Honey→B
会場 浅草花やしき
日程 令和7年1月8日

日本最古の遊園地として名高い浅草花やしきにて、ダンスや舞踏の精鋭メンバーによって繰り広げられる妖怪パフォーマンス。園内全体を使って妖怪の世界を描きつつ、人間と表現の多様性をテーマとした本格的な芸術鑑賞として、多くの皆様に楽しんでいただける企画となりました。



あなたがいない「 」を、 どう埋めるかがしています

—何かを失いながら生きていく私たちの声とグリーフケア—

企画者 清水芳成(清水伶)
会場 上野spaceバズチカ
日程 令和7年2月8日～16日

美術家・清水伶が11名の喪失当事者と作り上げた映像インスタレーション展。人生で様々な喪失体験に出会う私たちは悲しみを抱えながらどのように生きていけばよいのか?区内で活躍するグリーフケア専門家などを招いた「ケア×アート」に関するトークショーも実施しました。

